

品川区で、☐しない？

こんな仕事が、できるんだ！



INDEX

目次

1	品川区で、	ハッピーになるDX	しない？	事務	→P3
2	品川区で、	区民の命を守る仕事	しない？	事務	→P5
3	品川区で、	一緒に成長	しない？	事務	→P7
4	品川区で、	地域の盛り上げ役	しない？	事務	→P9
5	品川区で、	多岐にわたる建築	しない？	建築	→P11
6	品川区で、	水辺のにぎわいづくり	しない？	土木	→P13
7	品川区で、	良い施設づくり	しない？	電気	→P15
8	品川区で、	衛生コーディネーター	しない？	衛生監視	→P17
9	品川区で、	人とのつながりを実感	しない？	福祉	→P19
10	品川区で、	のびのびと保育	しない？	保育士	→P21

品川区で

ハッピーになるDX

しない？



事務／デジタル推進課・保育施設運営課

DXって知っていますか？

今、DXという言葉が役所でも企業でも多く使われています。デラックスではありません。「デジタルトランスフォーメーション」と読みます。デジタル技術による変革を意味しています。今後、高齢化社会により労働人口が減少していく一方で、お客様からのニーズは多種多様なものになっていくため、デジタル技術を活用してより効率的に業務を変革することが求められています。分かりやすく言うなら、デジタルを駆使して課題を解決してみんなでハッピーになろう！という考えがDXなのです。そんなDXを品川区では現在、新庁舎移転に向け様々な角度から、多くの部署と協力して進めています。



▲デジタル推進課ではリモート会議もよくあります。より効率的な業務推進を目指しています。



▲デジタル推進課では20～30代の若手職員を中心に、DXでハッピーになるアイデアを考えています。あなたのアイデアもぜひ聞かせてください！

デジタル推進課ってこんなところです

デジタル推進課では、一般事務とICT採用の職員が在籍しています。これを書いている私のようにシステム関連の素人もいれば、庁内公募制度によりDXを進めたい！という希望をもって異動した人など、多様なキャラクターにより区民サービスや職員の働き方などにおいてDXを進めています。窓口や郵便で申請していたものを、スマートフォンからサクッと申請できるようにしたり、キャッシュレス決済ができる場所を増やしたりなどが、区民サービスでのDX事例です。職員の働き方では、令和5年度にテレワークの整備を行い、自宅でも外出先でもしっかり働ける環境を構築しました。これらの業務を進めるうえで重要なのは、知識よりもコミュニケーション力とアンテナ力です。お客様や職員が何に困っているのか、どのように解決すればよいのかを同じ目線で考えられることが何より大切です。デジタルの知識が無くても、課題を発見して積極的に解決していける人と一緒に働きたいと思います。きっかけなんて何でもいい、品川区でお待ちしております！

保育園のDX

デジタル推進課では、様々な部署と意見交換をして、DXで課題を解決できないか考えています。ここでは、DXのエピソードとして、令和5年度の保育園でのDXを紹介したいと思います。区立保育園での保護者との連絡手段は、主に口頭や紙で行われており、保護者にとって利便性が低く、保育園でも負担が大きい状況でした。

また、保育日誌など、手書き作業の帳票が多くあり、保育士の業務時間を、効率よく保育に充てることが困難でした。

保育園の担当部署から、このような課題を改善するにはどうすればよいか、という相談を受けて、プロジェクトが始まりました。



▲ 保育施設運営課担当者とのミーティング。
部署の壁を越えて和やかに議論をすることが
良いアイデアを生むコツなのです！



▲ アンテナを天井に付けて端末を使えるようにする
といった、技術職のような仕事もやったりします。

保育園業務ICTシステムの導入

保護者の利便性向上と保育士の業務効率化を目指して保育園業務ICTシステムを導入することにしました。

システムを導入するには、保育園のどの部屋でも端末が利用できないといけなかったため、各保育園でのネットワーク整備が必要で、2ヶ月間の土日がこの整備作業で消えたのは良い思い出です笑(休日に勤務した場合は、その分、平日にお休みをとることができます。)

また、システムの機能を最大限活かすには、写真撮影が必要のため、従来のパソコンではなく、タブレットを調達する必要もあり、準備は多岐に渡りました。

保育園では保護者からの問合せ対応など、新しいことを始めると反響も大きく、導入当初は大変でした。

保育園と保護者をハッピーに！

今回、保育園業務ICTシステムを導入することで、保護者はスマートフォンやタブレットなどで、いつでも保育園からの情報を確認でき、欠席・遅刻などの連絡も時間を気にせず園に報告することができるようになるなど、保育園と保護者との円滑なコミュニケーションが可能となりました。

一方、保育園では各帳票を一元化できたことで、保育士間での情報共有がスムーズになり、事務の効率化を行うことで、保護者の利便性向上と保育士の事務負担の軽減を図ることができました。

このように、デジタル技術を使って職員の業務効率化を実現し、区民のウェルビーイングを高めることがDXの使命であり、新しい技術で多くのハッピーを創っていくことが、デジタル推進課での仕事のやりがいです。



▲ 保育園での子どもの様子をタブレットで撮影して、
システムを通じて保護者とすぐに共有できるようになる
など、事務の効率化が実現できました！

品川区で

区民の命を守る仕事

しない？



事務／防災課

日頃の備え、家庭での備蓄の重要性を伝える

大規模災害時には、ライフラインが寸断され、生活に必要な物資をすぐに入手することができなくなります。そのため、区では発災直後の区民の生活支援に向けた備蓄物資の確保を進めています。区として、備蓄・輸送体制の充実を図るとともに、生活必需物資を7日以上備蓄することの重要性について、多くの区民に伝えていくことが私たちの仕事です。

区で備蓄している大切な物資は、廃棄しないよう賞味期限が切れる前に、訓練などで配布することで、有効活用しています。



多様な避難に対応するために

「避難」といっても、その方法は様々です。

区では、自宅での生活が可能な場合には、自宅に留まる「在宅避難」を推奨していますが、自宅で生活ができない場合には、避難所や、親戚・知人宅、ホテル・旅館などへ避難することが必要です。

しかし、避難所での生活は、住み慣れた自宅での生活環境とは大きく異なり、ストレスを伴います。区では、避難所の生活環境をより良くするため、プライベート空間を確保するための間仕切りの導入や、栄養・衛生環境を整えるための取り組み、女性や乳幼児の視点に配慮した備蓄物資の購入などを行っています。

防災訓練の充実

「自分たちのまちは、自分たちで守る」という、地域ぐるみの防災意識を向上させるため、年に一度、地区ごとに総合防災訓練を実施しています。

また、区職員においても、大地震・台風などの風水害を想定した訓練や、実際に避難所開設を行う訓練などを、年に複数回実施しています。

実際に災害が発生した際は、大きな混乱が生じることが想定されます。いつやってくるか分からない災害に対して、日頃から訓練をし、心構えをしているかどうか、「いざ」というときの行動を大きく左右します。



被災地支援での教訓を活かすために

令和6年能登半島地震で甚大な被害があった石川県輪島市に対して、区は計4回の支援物資の提供を行いました。現地への支援物資の搬送にあたり、区職員が現地へ向かい、支援物資の集積所や、輪島市役所での災害対応に区として後方支援を行いました。

実際の被災地では現実とは思えない状況を目の当たりにしました。被災地支援の経験は、女性や子どもの避難生活やトイレに関する衛生問題など区の災害対応に活かすとともに、日頃取り組んでいる業務がいかに重要かを実感するきっかけになりました。「品川区で災害が発生したら…」と自分事に捉えて、実効性を高める取り組みをさらに強化していきます。



区職員としての役割

災害対策では、一人ひとりが自らの安全を守る「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合う「共助」、そして、行政が自助および共助を支援し、区民の安全を確保する「公助」の連携が重要です。

平時は、防災課職員として、区民の防災意識を高めるための啓発イベントや、地域と連携した防災訓練の実施など、様々な方法で「自助」・「共助」を支援しています。

災害時には、区役所全体で災害対応をすることになり、「公助」の力で区民の生命を守る活動を行います。災害の状況によっては、区職員が避難所開設を行うこともあります。被害が発生する前に、迅速な避難所開設を行うことが、区民の生命を守ることに繋がります。

普段の仕事だけではなく、災害対応も区職員の重要な役割のひとつです。誰もが影響する安全・安心を守る行政の一翼を担うことは大きなやりがいがあります！



品川区で

一緒に成長

しない？



事務／人事課

複雑・多様化する行政課題に 向き合うために

品川区をとりまく社会経済状況は、様々な要因による変化がもたらされています。人口構造の変化、性別・国籍などにかかわらず分け隔てなく暮らしていける共生社会の実現、DXの進歩、気候変動や新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた持続可能な社会の構築など、私たちの意識や社会制度に対する変革が求められる困難な課題に取り組んできました。これらの複雑・多様化する行政課題に立ち向かうため、品川区としてどのような人材が必要なのか、どのように人材を育成していくのか、あらためて今、明確化することが求められています。



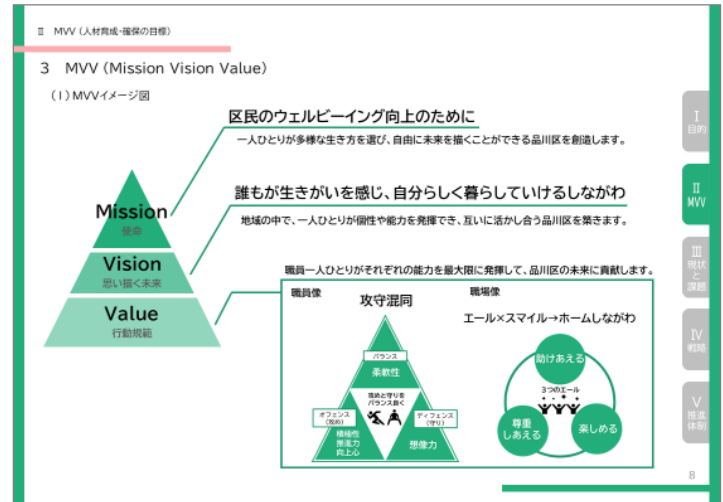
有志によるワークショップで 職員たちがつくる職員像・職場像

区民のウェルビーイング向上のために、変化の時代の区政運営において活躍できる人材を育成するべく「品川区人材育成・確保基本方針」を策定しました。策定にあたっては、職員の意見を幅広く取り入れることを重視し、庁内の有志によるワークショップを実施しました。また、全職員を対象としたアンケートを令和5年8月に行い、職員の意見を幅広く聴き取り、方針などに反映させました。アンケートでは、めざす職員像とあるべき職場像について、ワークショップで検討した結果をもとに、それぞれのキーとなる言葉を選んでもらいました。その結果をもとにワークショップメンバーで再検討を行い、職員像は5つ、職場像は3つのキーワードを選定しました。スキルピラミッドや各職層に求められる役割と能力の検討においても、アンケートの意見を参考にしながら検討を進めました。



Mission Vision Valueの設定

品川区では、自治体としてはめずらしいMission Vision Value（以下、「MVV」）を設定しています。区がめざす姿を明文化することで、区の目標やコンセプトを理解したうえで行動できる職員が増え、心理的な一体感から、長期的な価値創造が実現できます。MVVは策定で終わらず、それを職員一人ひとりが自分たちの指針として自分事化することが重要です。積極性・推進力・向上心に満ちあふれ、想像力を働かせて未来の展開を思い描き、機敏さと柔軟性を持って対応できる、攻めと守りのバランスが取れた職員— 自分の職務の目的を明確に理解し、担う業務が区のめざす姿につながっているという実感、職員としての誇りを持って働けることをめざします。



バラエティに富んだ 研修プログラムの策定

DX、SDGs、心理的安全性、ダイバーシティ&インクルージョンなど、これまでにない考え方を学び、区民のウェルビーイング向上のため、時代に応じた能力向上を働きかけています。

研修の目的は教えることではなく、職員が自ら主体的に学ぶことを手助けし、職員に行動変容(＝変化)が起きることです。

職員が伸ばしたいスキルを伸ばせるよう、研修のあり方や研修カリキュラムを整理・見直し、仕事の現場に学習する文化を広げることをも指向する次世代の人材育成をめざします。

II 研修実施計画

心理的安全性講演会

対象：管理職（必修）、係長級で希望する職員

日程：7月12日（金）

「エールズマイルナーホームしなぐわ」という、助けあえる・喜ぶしあえる・楽しむ環境で、人材育成・確保基本方針で定めたあるべき職場像です。

先行者が不透明で将来の予測が困難な時代（VUCAの時代）となり、組織のあるべき姿も大きく変化しています。VUCAの時代に対応するためには、心理的安全性の高い組織づくりが必要となります。講師：日本の組織・チームの心理的安全性に関する研究を行っている株式会社ZENTECHの方をお招きし、心理的安全性の基礎や高める方法について学び、区の定めるあるべき職場像につなげていきます。

出典： <https://zentech.jp/service/Training>

トップとの対話 一区長と語る 新人の抱負－

対象：選抜された新規採用職員（選抜方法は別途通知）

日程：7月下旬予定

区長に対して品川区職員としての抱負等を述べてもらう。ディスカッションを行います。トップが「命」を奪っていることを直接聞き、刺激を受けることで、自らの職務に対するモチベーション向上を図ります。

トップとの対話 一区長と語る 未来のしなぐわ－

対象：選抜された令和6年度に係長職に昇任した職員（選抜方法は別途通知）

日程：9月下旬予定

区政に関するテーマについて、区長とディスカッションを行います。トップの考えを理解し、トップに自分の意見を伝えることで、区政に主体的な姿勢を持ち、モチベーションとエンゲージメントの向上を図ります。

多様な職員の能力を どうしたら活かすことができるか

人材育成は短期的スパンだけで考えるものではありません。組織がこの先5年、10年、50年と成長していくために、どのような人材を配置し、どのような戦略を立て、実行していくのかが鍵となります。

品川区はMVVを策定し、職員がベクトルを合わせて職務に向き合えるようにすることに加え、タレントマネジメントシステムを自治体の中でいち早く導入し、職員の能力を最大限に活かすための体制を整えています。

品川区では全国的にも先進的な事業に従事することができます。やりたいことをやりたいと言える空気感があります。庁内横断型のプロジェクトにより、部署を超えた横のつながりを強化し、夢の実現に向けて進む人たちの後押しができることが、今の仕事のやりがいです。



https://www.kaonavi.jp/scene/jintekishihonjyoho_kaiji/より引用

品川区で

地域の盛り上げ役

しない？



事務/大崎第二地域センター

区民の一番身近な窓口として、町会・自治会の活動を応援しています😊

品川区では、町会・自治会の活動応援のため、町会・自治会への加入促進支援、活動の活性化に必要な用品・子どもが参加する地域イベント・まちをきれいにする事業などへの補助、地域情報誌の発行など、様々な支援を行っています。

地域センターでは、区民の一番身近な窓口として、町会・自治会をはじめ、地域の子どもの健全育成の活動をする青少年対策地区委員会などの地域団体と協力・連携し、区民まつりや、総合防災訓練などの地域イベントを行っています。

また、住民票など公的証明書の交付や税金・保険料などの徴収、集会所の貸出し業務など幅広い業務を行い、区民に最も近い場所で仕事をしています。



町会・自治会って？

地域コミュニティの中心として、住民同士の親睦やつながる活動をはじめ、地域で起きる課題を解決するための活動をしています。

町会・自治会の良いところは、おまつりや日帰り旅行など、楽しいイベントの開催はもちろん、いざ災害が起きたときに助け合う人たちが近くにいることの安心や備えがあることです。

また、子育て世帯や高齢者が安心して暮らしていくためには、地域の支え合いが必要です。地域に顔見知りが増えれば、みんなが「見守り隊」です。

このように、町会・自治会は住民が快適に暮らせるよう、安全で安心なまちづくりに大きく貢献しています。

区内には約200の町会・自治会があり、それぞれ地域の特色を活かし、様々な活動をしています。



地域の安全を守るために

町会・自治会はそれぞれの地域の持ち味を活かしながら防犯・防火パトロールや防災訓練を実施するなど、まちの安全・安心を守るための活動をしています。

秋には町会・自治会を中心に総合防災訓練を実施しています。地域センターは事務局として、会議の開催、町会・自治会・学校・消防署・警察署・児童センター・防災課など多様な団体と訓練内容などの調整や準備、訓練当日の進行管理などを行っています。

防災訓練の内容は「負傷者搬送訓練」、「応急手当訓練」、「スタンドパイプ訓練」、「放水訓練」、「展示・相談コーナー」などを行い、地域の防災力強化を図っています。

災害時における被害を最小限に食い止めるためには、防災訓練などはもちろんですが、日々の備え、そして平時からの地域のつながり・助け合いが大変重要です。



地域の交流を図るために



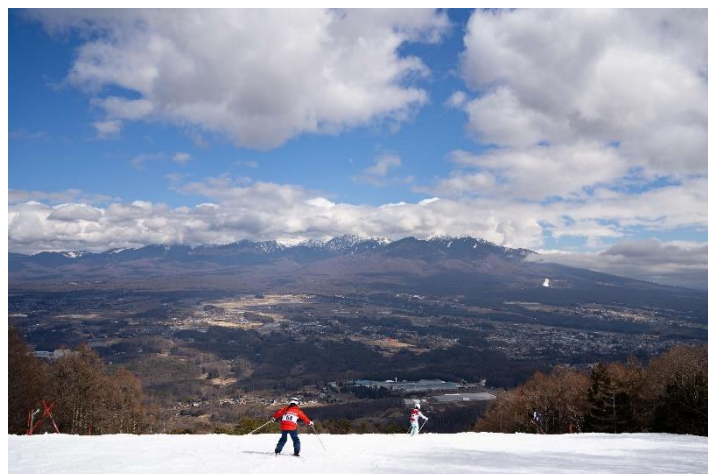
他にも学校を会場に地域の方々が企画・運営する区民まつりをはじめ、地域の方々が楽しめるいろいろな行事を、町会・自治会をはじめとした多様な団体とともに、実施しています。

区民まつりでは、焼き鳥、かき氷、タピオカドリンクなどの食べ物や飲み物の販売、エア消火器の体験、ぶんぶんごまづくり体験、お菓子釣り、スーパーボールすくい、ストラックアウトのブースなどを設置し、毎年多くの方に来場していただいています。子どもたちが満面の笑みで楽しんでいる姿を見ると、これまでの疲れも吹き飛びます！

よりよい地域づくりのために

町会・自治会を中心に、区、区民、事業者、各団体などがそれぞれの役割を果たすことで地域のつながりを強め、みんなで助けあう地域社会の実現を目指しています。

地域センターは、デスクワークだけではなく、地域に足を運ぶことも多いです。例えば大崎第二地域センターでは、冬の親子バスハイクでスキー・スノーボードの引率など他の部署にはなかなかない仕事もあります！区には様々な部署があり、いろいろな仕事がありますが、区民に一番近い地域センターという場所で、地域の方々と一緒にまちを盛り上げませんか？



品川区で

多岐にわたる建築

しない？



建築／

施設整備課・都市計画課・都市開発課・建築課・庶務課 など

老朽化した公共施設を新しく

どのような建物にもいつかは建て替える時期がやってきます。品川区でも学校や保育園、文化センターなどさまざまな公共施設について、建て替え工事を行っています。

建て替え工事を行うにあたり、はじめに設計業務として、基本設計で建て替えるにあたっての条件整理や建物位置や部屋の配置などの方針検討を行った後、実施設計で各部屋の壁や床の仕上げなど新しい建物のより詳細な検討を行います。

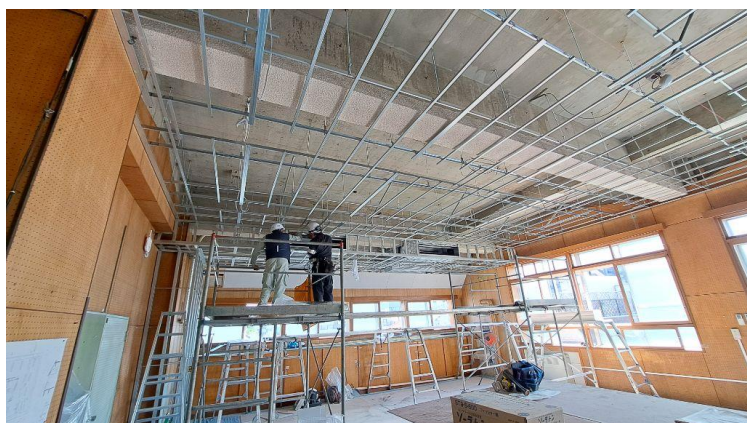
設計業務が完了すると、工事監督業務に移ります。工事監督業務では、適切な工事の指導や工程管理を行いながら、建物が完成するまでの間、工事現場の安全や建物の品質確保のための現場確認をしていきます。



公共施設を快適に利用してもらうために

建物に、故障や不具合はつきものです。施設整備課や庶務課では建物の故障や不具合の状況確認や対応、修繕工事を行っています。

問題対応にあたっては、設計者や施工者と日々、協議を重ねながら最善の解決策を検討・選定しています。また、近年品川区では、日々の不具合への修繕対応のみならず公共施設の長寿命化を見据えて、水道管や電気線、ガス管、空調機器などの設備・ライフラインの大規模更新、改修なども進めているところです。



区民の安全・安心のために

公務員の仕事は社会貢献性の高い業務です。中でも建築課では、建築計画や設計図面の審査・現場検査を通じて、建物が法令に準拠しているかを確認しています。建築職として区民の安全安心な生活を守るお手伝いができることに喜びとやりがいを感じられます。

実務では、数多くの図面や現場を見たり、法律条文の根拠や解釈について調べたりすることで、建築に関する知識・経験を積むことができ、自分自身の成長を日々実感しています。

私たちと一緒に、まちの安心と安全を支援していきましょう。



公共施設の工事から都市計画まで、 建築職の仕事は幅広い

公務員の建築職というと、公共施設の改修・新築工事や、建築物の審査・指導を行う仕事がイメージしやすいと思います。

この他にも、まちづくりの方針や取り組みの考え方を示す「品川区まちづくりマスタープラン」や、地区の特性に応じたまちづくりのルールである「地区計画」などに従ってまちづくりが進められており、これらの仕事にも建築職は関わっています。

建築職は技術系の専門職ですが設計、工事、建築基準法、都市計画など、業務の幅は広く多岐にわたります。建築に関する様々な分野の業務が経験できるのは、区役所の建築職だからこそだと思います。



ぜひ、あなたも一緒に!!

改築工事や改修工事など形として目に見えやすいまちづくりだけでなく、建築審査や都市計画、都市開発など縁の下の力持ちとしてのまちづくりをとおして、これからの品川区のまちを一緒につくっていきませんか？

品川区で

水辺の
にぎわいづくり

しない？



土木／河川下水道課

水辺にふれあうために

品川区では防災機能としての役割だけではなく、地域活性・旅客運送などの水辺空間を核としたにぎわい創出を目的として、船着場の整備を順次行っており、現在7か所あります。

河川下水道課では、これら船着場の維持管理や改修工事といったハードの取り組みと、にぎわい創出に向けた利用促進や航行マナー啓発活動といったソフトの取り組みを行っています。



利用しやすい船着場を作る

東品川海上公園船着場の例を紹介します。元々は地元団体が社会実験のために設置したカヌーやSUPなど専用の仮栈橋でした。

その仮栈橋をカヌーやSUPなどの非動力船の水上レクリエーション基地とし、さらなる利用促進を図るため令和3年度に船着場として再整備しました。

再整備にあたっては、利用者である地元団体との船着場の形状などの調整や運河管理者との船着場の位置や整備許可などの調整が必要で、苦労しましたが、水辺に関わる様々な機関と関わりながら多岐にわたる業務を経験することができます。

船着場の開放に向けて

船着場でのにぎわいをつくるために地元団体と一緒に検証利用を行っています。

一方、東品川海上公園船着場の利用者が増えていくと水上バイクや屋形船などとの接触事故や水難事故などのリスクが高まるので、安全のためにルールが必要です。検証利用では地元団体にカヌーやSUPなどのレクリエーションを行ってもらうことで、安全航行への課題抽出にもつなげています。このようにして地域と連携しながら、水辺のにぎわいを作っていきます。



安全に利用するために

桜の時期になると、目黒川では花見を目的とした水上バイクやプレジャーボートなど、動力船の航行が多くなります。動力船が行き交うことで強い引き波が発生しカヌーやSUPなどの航行に影響を与えるとともに、騒音も問題になっています。

そのため、舟運事業者をはじめとする関係者とともに、桜の時期に東品川海上公園船着場を拠点として、航行マナー啓発活動を行っています。

その結果、引き波を立てたり、騒音を発生させたりする動力船は年々減少しています。

一緒に水辺の安全についても、考えてみませんか？



地域主導において

今後、品川区における水辺のにぎわいをつくっていくには、地域が主体となって活動していく必要があります。そのため、将来地元団体が船着場の管理運営することを目指しています。東品川海上公園船着場においてもにぎわいづくりのために地元団体と日々協議や会議を行っています。水辺のにぎわいづくりに向けて区民や地元団体、東京都と協力しながらハードとソフトの両面から取り組めることが河川下水道課職員としてのやりがいと魅力でもあります。



多岐にわたる土木職の業務



通報アプリ「しなみちレポート」で道路の早期補修を実現



コミュニティバスの乗車率向上や他の交通手段の検討



(仮称)勝島人道橋の整備による地域の回遊性向上



しながわ水族館リニューアルに向けた民間活力の導入

災害に強いまちづくりや区民生活を支える道路や橋、公園、河川などの適切な維持管理やさらなる活用など、未来につながる施策をハード面からサポートを行っています。

品川区で

良い施設づくり

しない？



電気／施設整備課

区役所の電気職って？

公務員の中でも、「電気職」という職種は、あまりなじみがないかもしれません。区民の方より、工業者の方とやり取りすることが多い部署です。仕事の具体例を挙げると、照明のLED化、エレベーターや弱電設備の改修など、建築や機械に附帯した設備の工事を行っています。



仕事をする上で重要なこと

電気設備の工事は設計どおりに進むことは少なく、私たちが作成した図面を基に工業者は工事を開始します。しかし、実際に工事が始まってから現場で気がつく問題もあります。当然ですが、工事の予算は税金のため、いい加減な仕事をして、区民が望まないものをつくることはできません。問題が発生した際は、請負業者と現場で話し合いながら解決策を考えます。工事は、様々な人と一緒につくりあげていくことになるので、協力し合える関係を築くことが重要です。



制約の中での挑戦

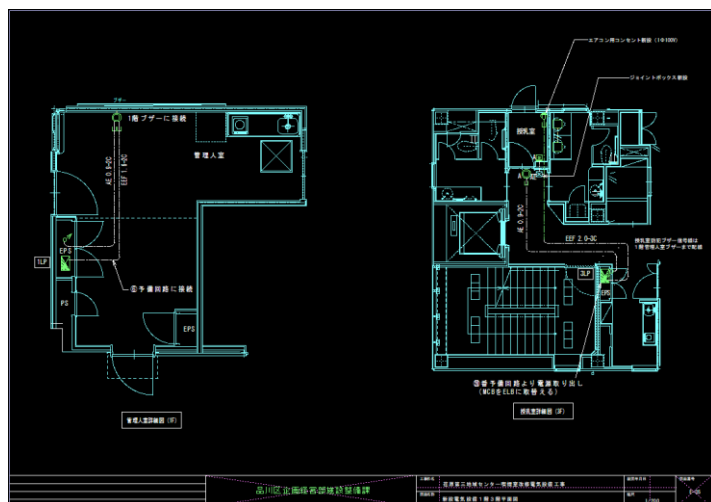
施設整備課では、区立施設の受変電設備や電灯設備、などの設計、積算、工事監理を行っています。常に複数の設計、工事を同時並行で進めていて、1つの現場に月2、3回は足を運びます。既存施設の設備改修工事は勤務中、授業中に工事をするので、運営にできるだけ支障を来さないよう工程を組みます。音を出してはいけないなど何かと制約は多いですが、無事に終えた時は達成感があります。



スキルアップできる環境

積算ソフトやCADを使用した工事・委託の設計ができ、入庁後からスキルが向上していると感じています。

また、それらの技術的スキルを伸ばせるよう、研修プログラムも充実しているため、やる気次第で能力をさらに向上させることができます。



利用者の快適さを求めて

民間企業と違い、公務員は営利目的ではなく、区民や施設利用者の満足度を追求する設計・工事を担当できることに大きな魅力を感じています。

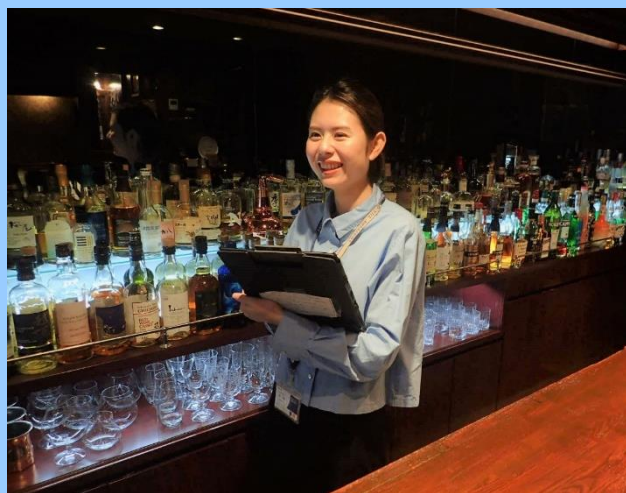
満足度を追求する設計の基本理念は「華美な設計」や、「高価な資材を使用すること」ではなく、「貴重な財源を無駄に使用せず、耐用性が高く、適切な品質を確保すること」です。この理念に則った設計・工事ができ、なおかつ施設利用者が快適に利用している姿を見たときは、「やりがい」を実感します。



品川区で

衛生コーディネーター

しない？



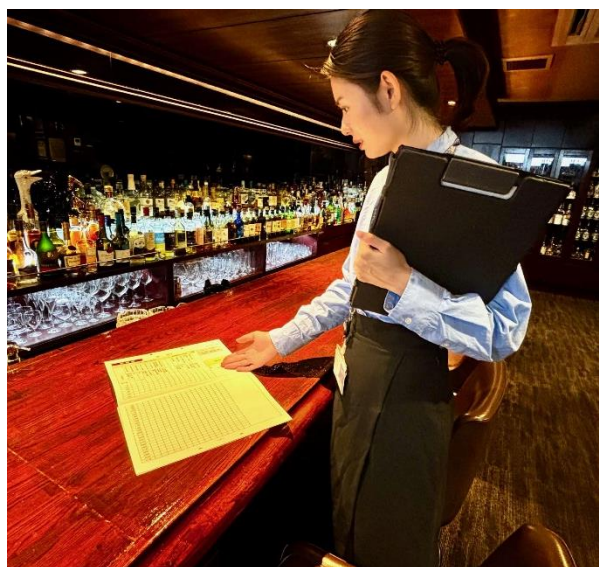
衛生監視（衛生）／生活衛生課

公衆衛生で区民の健康を守る

衛生監視（衛生）は、衛生に関する営業の許可・届出の受付、監視指導や検査を主な仕事としています。また、講習会などを通じて事業者や区民への啓発活動を行っています。他にも、害虫や騒音などに関する区民からの相談に乗ることもあります。

主な配属先は、生活衛生課の食品衛生担当・環境衛生担当・医薬担当・検査担当、環境課の指導調査係があります。部署間での異動があるため、様々な仕事を体験することができます。

今回はその中でも、食品衛生担当の業務について紹介していきます。



食の安全を守る監視員として

食品衛生担当は、新たに飲食店などの営業を希望する事業者からの図面相談や許可申請手続きを受け付けています。受付後、施設へ立ち入り、必要な設備が揃っているかを確認します。問題がなければ、営業許可書の交付を行います。

その他に、区内事業者や区民から、食品衛生や食品表示に関わる相談を受けることもあります。

根拠法令をはじめ幅広い知識が必要で、専門的な話を相手へ分かりやすく伝えることに難しさを感じることもあります。しかし、専門的な知識を身につけ、様々な経験を積むことで、自分自身も大きく成長できる点が、この仕事の魅力だと感じています。

食品が原因となる

健康危害を防ぐために

食中毒を疑う通報があれば、患者やその関係者、原因施設の事業者と協力を得て調査をします。調査の結果、食中毒と判断されると行政処分を行い、事故の拡大と再発の防止を図るための指導を行います。

このようなことが起こらないよう、区内の製造所や販売店などを対象に、定期的に食品の検査や施設の拭き取り検査をしています。それにより、食品の取り扱い状態が適切かどうかを確認できます。

また、事業者向けの講習会を毎年開催しています。講習会では、食品衛生に関する最新情報などを提供し、事業者の衛生管理の向上・徹底ができるよう取り組んでいます。



食の安全を広める取り組み

毎年、区民などの一般消費者に向けて、講演会や消費者懇談会、街頭相談などのイベントを開催しています。日常生活でできる食中毒の予防対策などの情報を提供することで、食の安全性に関する知識の普及につなげています。

他にも、パンフレットや広報しながら、ホームページなどを活用し、食品衛生に関する情報をいつでも得られるようにしています。

追い求める職員像と実現に向けて

ほとんどの配属先が事業者や区民と接する仕事です。そのため、自分の知識を正確に伝えるコミュニケーション能力、臨機応変に対応できる柔軟性や想像力が求められます。また、様々な事例に対応するために、随時更新される情報や法令を身に着ける必要があり、日々、自己研鑽を続ける大切さを実感しています。

品川区にはOJT制度があり、新規採用の方には教育担当の先輩が付きます。人材育成計画の下、様々な業務を先輩職員と一緒に実践し、段階的に成長できる環境を整えています。また、特別区の合同研修も複数回あるため、専門的な知識や技術を習得できる機会も充実しています。

日々の業務を通じて、目に見えない形で多くの人々の健康を守っているという実感が、衛生監視（衛生）としてのやりがいのひとつです。みなさんも人々の健康を守る縁の下で力持ちになりませんか？



品川区で

人とのつながりを実感

しない？



福祉／高齢者福祉課

住み慣れた地域で暮らし続けるために

高齢者福祉課の福祉職は、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるためのお手伝いをしています。具体的には、高齢者やそのご家族から相談を受け、介護保険サービスや様々な社会資源に繋げるなど、関係機関と連携して支援をしています。

また、高齢者虐待の防止に関することや成年後見制度の申立てなど、幅広く高齢者の生活を支える業務を行っています。ヘルパーやケアマネジャーのように高齢者の方を直接支援するのではなく、関係機関との連携で側面から支援する役割が区の福祉職には求められます。



地区ケア会議でのつながりで地域の課題が明らかに

地区ケア会議はケアマネジャーなどの介護職、医師や看護師などの医療職、区職員といった多職種で構成されています。それぞれの視点からケース検討を行い、そこから見えてくる地域の共通課題とその改善策も合わせて考えています。多くの人の意見を聞くことで新たな気づきと学びがあり、地域の関係者との顔が見えるつながりを作ることができます。



ケアラー懇談会で介護者が つながることができる場に

自宅で介護している人が気軽に集い、喜びや悩みを共有するとともに、今後の介護の励みとしてもらうことを目的に、ケアラー懇談会を開催しています。大事な家族のために、できる限りのことをやってあげたい!という思いはありつつも日常の些細な愚痴は誰もが言いたくなるもの。ケアラー懇談会では、そんな高齢者を介護している者同士が気軽にしゃべりできる場になっています。実際に「力が湧いた。来て良かった!」などというお声を頂いており、成果を感じています。



他部署の福祉職とのつながり

高齢者福祉課のほかにも、生活保護、障害者福祉、児童福祉など、様々な分野に福祉職が配属され、その人らしい生活を実現するために、行政福祉職の専門性を活かしてケースワークや事業に携わっています。普段はそれぞれの所属で業務を行いますが、必要に応じて連携し、対応を検討しています。日々業務の中で迷うことも多くありますが、共に経験を積み重ね、成長できる仲間がいることが、大きな励みとなっています。

つながりが安心の輪へ

私たちは高齢者やそのご家族、地域住民、関係機関、他部署の福祉職など多くの人とのつながりの中で、高齢者と高齢者を取り巻く地域の課題に取り組んでいます。複雑で困難な相談内容も多いですが、様々な関わりの中で高齢者やそのご家族の安心したような表情を見たときに、やりがいを感じます。

一緒に品川区で「人とのつながり」を感じてみませんか?



品川区認知症啓発キャラクター
くるみちゃん

品川区で

のびのびと保育

しない？



保育士／保育施設運営課

様々な「色」がある保育園

区内には地区によって様々な特徴があり、地域に密着している区立保育園にもそれぞれの「色」があります。

お祭りが盛んな地域では、お神輿を担いで町内を回ったり、にぎやかな商店街のある地域では、お店の方々と交流をしたりとそれぞれの地域ならではの経験ができます。

数年ごとの人事異動を通して、新しい地域での発見や気づきがあり、保育の視野がひろがります。また、さらに品川の魅力を感じることもできます。



充実した研修プログラム

「自己セルフチェック」で自身の力量の見える化を行い、一人ひとりにあった研修を選択、受講することができます。保育園職員として必要な専門性を8分野に分類し、計画された「のびのびプロフェッショナルスクール研修」の受講、東京都などの外部研修への参加、園内研究など、他に類を見ない内容の学びの機会をがあります。そのため、品川区乳幼児保育・教育の指針である「のびのび育つしながわっこ」に基づく質の高い保育を実践できるスキルを身につけることができます。

また、採用1年目研修など職層別研修や私立保育園との合同研修などで様々な保育園の保育士と日々の保育について語り合い、情報を共有することで、多様な学び（経験）の機会にもなっています。

働きやすい職場の実現

日々の業務を見直し、「ノンコンタクトタイム」を創出。子どもたちと関わらない時間をつくり、事務作業を実施できるように日々の業務を見直したり、ICTシステムを活用して、帳票類の電子化を図ったりするなど、業務改善に力を入れています。

区立保育園には幅広い年齢層の職員がいるため、悩み事や困り事について一緒に考え、アドバイスをしてくれる心強い先輩保育士がたくさんいます。「職場では話すことができない…」という悩みについては、公立保育園OBに相談することができる「のびのびな保育園サポート」を実施。多方面からの支えがあることで安心して働くことができます。



自分らしさを発揮できる職場

保育園を運営する一人として、多くの若手職員が質の高い保育を目指して、力を発揮しています。クラス会議や職員会議を通して、自分の意見を発信したり、新たな提案をしたりする場が多くあります。子どもたちの成長を考えながら保育について話し合い、実践することで保育士同士の理解が深まります。また、保育者の思いが子どもたちの生き生きとした笑顔に繋がっていることを実感することもできます。

そして、子どもたちからたくさんのパワーをもらいながら、仕事とプライベートの充実を図り、自分らしく気持ちよく働くことができます。

地域で子育てをする品川

品川区では保護者が保育士となって保育をする「一日保育士体験」、調理師によるデモンストレーションを実施する「給食体験」、私立保育園とのネットワーク構築を目的とした「公・私立保育園地域連携推進事業」、小学校や幼稚園と連携を図る「保幼小ジョイント事業」など様々な事業を実施しています。

保育士だけではなく、様々な関係機関と連携し、地域全体で子育てをしています。ぜひ、品川区で一緒にのびのびと保育をし、「子育て」をしませんか？

